研究室紹介

福岡県農林業総合試験場 八女分場

福岡県農林業総合試験場八女分場は福岡県の南部，八女市黒木町の標高 144 m の台地の上にあります。茶を中心としながらも，その立地条件を活かして中山間地に適する作物に関する研究も行っている地域に根ざした研究機関です。

この八女分場ですが，現在に至るまで様々な変遷の歴史を歩んできました。本県茶業に関する試験研究は明治 40 年（1907 年），旧八女郡黒木町に設置された農事試験場紅茶試験所にはじまります。この紅茶試験所が八女分場の前身とも言えるのですが，大正 3 年（1914 年）にいったん，廃止されます。その後，大正 15 年（1926 年）に農事試験場茶業試験部が八女市旧岡山村に設置されます。この茶業試験部は，以後，県内複数箇所に移転，また統廃合され，ついに昭和 25 年（1950 年）に当時の農林省九州農業試験場へ移管されてしまいます。ここで再び本県の茶業研究は失われます。しかし，本県の農業試験場拡充整備の一環として，県の特産物である茶の振興を図る観点から，昭和 33 年（1958 年）に新たに福岡県立農業試験場茶業指導所を現所在地である八女市黒木町に開設。昭和 56 年（1981 年）に農業総合試験場茶業指導所，平成 2 年（1990 年）には農業総合試験場八女分場に改称され，翌平成3年に現在の新庁舎が完成しました。

この間，試験研究の対象も従来の茶に加え，平成元年（1989年）に中山間地作物の研究を開始。平成5年（1993年）には茶研究室と中山間地作物研究室の 2 研究室体制となりましたが，機動的に研究需要へ対応する観点から平成 25 年（2013 年），現在の茶・中山間地作物チームへ整理統合。平成 26 年（2014 年），福岡県農林業総合試験場八女分場と改称し今に至っています。

現在の職員体制は分場長以下，事務職員 2 名，研究職員 6 名，現業職員 4 名であり，これに日々雇用職員 5 名が加わる体制です。

茶関係の試験研究では栽培・加工や品種・系統適応性検定，病害虫防除対策等に加え，平成 27 年（2015 年）からは新たに品種開発にも取り組む等，茶全般に関する研究に精力的に取り組んでいます。特に本県の茶の代名詞とも言える玉露の栽培に関して，その被覆方法なども含めた優れた研究成果は日本一の玉露産地の維持発展に貢献してきました。その他，ビニル被覆の省力挿し木の開発や，玉露缶ドリンクの開発，‘さえみどり’の玉露適応性の解明等，多くの研究成果は現場での茶栽培などに広く活用され，普及指導を通して本県の全国茶品評会での上位入賞，「福岡の八女茶」のブランド価値向上に大きく貢献してきました。また，新害虫チャトゲコナジラミの天敵を利用した防除体系や化学農薬を半減する IPM システムは現場の茶栽培の防除に活用されています。

職員一同．右写真はハウスでの茶の育種の状況

一方，中山間地作物関係の試験研究では，中山間地の冷涼な気候を活かした葉ワサビの産地化支援，ミシマサイコやトウキ等の薬用植物の栽培歴の作成などを行い，中山間地域の振興に貢献してきました。

最近では煎茶製造ラインを利用した簡易な粉末茶製造法の開発，EU や台湾向けの茶病害虫防除体系の構築等，今後，需要が見込まれる粉末茶の製造や茶の海外輸出を可能とする技術の開発。加えて，「福岡の八女茶」のさらなる高級化を図るために IoT を活用した八女伝統本玉露の生産システムの開発にも取り組んでいます。

今後は AI 技術の茶栽培への利用や，電照技術を用いた茶の育種の加速化，新たな茶や中山間地作物の需要発掘等，様々夢のある課題にも取り組んでいこうと考えています。今後とも幅広くアンテナを張り情報収集などに努め，研究を研究で終わらせることなく，職員一丸となり地域振興の観点から普及へ橋渡しできる新技術・新品種の開発に邁進して参りますので，どうぞ応援よろしくお願いします。また，近くにお寄りの際はお気軽にお立ち寄りください。美味しい「福岡の八女茶」でおもてなし致します。

（福岡県農林業総合試験場八女分場長　角重和浩）

〒 834-1213　福岡県八女市黒木町本分 3266-1
TEL　0943-42-0292

植物防疫